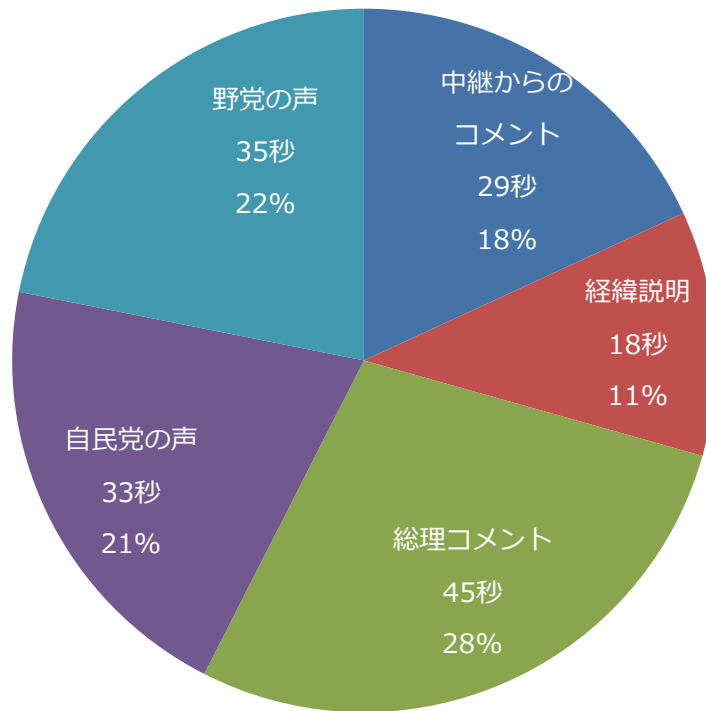


TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局： TBS	番組名：報道特集	放送日： 2018 年
<p>出演者：</p> <p>気仙沼市からの中継：金平茂紀、膳場貴子、</p> <p>富岡町からの中継：日下部正樹</p> <p>東京スタジオ：品田亮太、日比麻音子</p> <p>※全体の構成についての特記事項</p> <p>今回の報道特集はレギュラーの金平キャスター、膳場キャスターが気仙沼市からの中継をおこない、日下部キャスターが富岡町からの中継を行っていた。また、品田キャスターと日比キャスターが東京のスタジオを担当し、特集以外のトピックは東京のスタジオで取り上げられるという構成だった。</p>		
<p>検証テーマ： 森友学園問題、米朝首脳会談、東京大空襲追悼式典、アメリカの軍事パレード</p> <p>【特集】 原発と復興</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森友学園問題</li> <li>・ 鹿児島県と宮崎県の県境の新燃岳で噴火活動</li> <li>・ 沖縄県今帰仁村で殺人事件、被害者女性の夫を逮捕 別の場所でも夫が妻を殺人する事件が一件</li> <li>・ 米朝首脳会談について</li> <li>・ 東京大空襲から 73 年、追悼式典</li> <li>・ びわ湖開き</li> <li>・ くまモン誕生祭</li> <li>・ 東海道新幹線、2020 年導入予定の新型車両 N700S が JR 東海浜松工場でお披露目</li> <li>・ アメリカ、退役軍人の日に軍事パレード実施へ</li> <li>・ 東京、スマホアプリで防災模試</li> <li>・ 東京、危険ドラッグ工場製造グループの主犯格を逮捕</li> <li>・ 東京大学で合格発表</li> <li>・ 【特集】 原発と復興</li> <li>・ スポーツ報道</li> <li>・ 貴乃花親方が内閣府に日本相撲協会を告発、八角理事長のコメント</li> </ul>		
<p>放送法第 4 条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 森友学園問題：結論→問題となる箇所は特に見られず</li> </ul> <p>森友学園問題について取り上げられた。このトピックに当てられた時間は 160 秒で、ポイントは大きく、経緯説明、総理のコメント、自民党の声、野党の声、中継からのコメントが取り上げられていた。それぞれのポイントについての時間配分及び比率は以下の通りである。</p>		



中継からのコメントでは番組のオープニングで気仙沼の金平キャスターが「ええ、震災でなくなったおびたしい方々から見て、今の日本はこうなってほしかったという方向に果たして進んでいるのでしょうか、被災者に寄り添うはずの復興、原発政策の現状を考えた時、現実に向かわず、あったことをなかったかのように進んでいないか、これは森友学園問題への政府の対応にも通じる私達の国の有り様の根源的な問題でもあります、後ほどの特集でも考えます。」とコメントしていた。

経緯説明では東京のスタジオで品田キャスターが「森友学園への公有地売却に関する決裁文書の書き換え疑惑をめぐり安倍総理は昨日辞任した佐川国税庁長官を含め財務省が決裁文書の有無を明らかにするため、全力を上げていかなければならないと強調しました。」とコメントしていた。

総理コメントでは福島県葛尾村を視察中の安倍総理による「佐川前長官を含め、財務省においてですね、決裁文書の件について。操作に対して全面的に協力をする一方、文書の有無を明らかにする、そのために全力を上げていかなければなりません」というコメントが取り上げられた。

自民党の声では山梨県昭和町を視察中の岸田文雄政調会長による「国民の中から、財務省の対応についてですね、疑問の声が上がっているわけですから、国民に分かりやすい説明を求めたいと、与党の立場からもそのように思っています。」というコメントが取り上げられた。

野党の声では共産党の小池晃書記局長の東京都新宿区の街頭での「全てを佐川氏一人に責任を追わせて幕引きをする、こんなやり方を絶対に許してはいけません。真相を徹底解明して、そしてこれがもし事実であれば、安倍政権は内閣総辞職をしなければならない問題ではないでしょうか。」という演説が取り上げられるとともに、野党側は佐川氏の辞任を受け、麻生財務大臣や安倍総理にも責任があるとしてさらに攻勢を強める構えであることが報じられた。

このトピックに当てられた時間は 160 秒で、原発政策と森友学園問題を同列に論じることの適切さには疑問が

残るものの、放送法第四条の観点からは特に問題であるという箇所は見られなかった。むしろ、先週のスタジオでコメントするのみにとどめた極めて一方的な取り上げ方に比べると、著しい改善が見られたともいえる。

・米朝関係：結論→特に問題なし

トランプ大統領が 9 日に Twitter に「北朝鮮との取引はまだ道半ばだが完成されれば世界にとって非常に良いものになる」と書き込み、改めて会談に向けた意欲を示していること。韓国政府の当局者によると、金党委員長からの提案を聞いた際、トランプ氏は金党委員長と早く会って非核化の問題を模索するのが望ましいと言った発言をしたということやその場でトランプ氏は金党委員長から会談の提案以外の別のメッセージも伝えられていたことが明らかになったことが報じられた。また、当局者は首脳会談までに米朝の特使同士が事前協議を行う可能性があるという一方、ホワイトハウスのサンダース報道官による「トランプ大統領は(非核化に向けた)具体的な行動、歩みを見ないかぎり会談はもたない」というステートメントも取り上げられた。他方で、北朝鮮の国営メディアはこれまでのところ、米朝首脳会談の提案やトランプ大統領の反応については報じていないことも伝えられた。このトピックに当てられた時間は 100 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・東京大空襲追悼式典：結論→特に問題なし

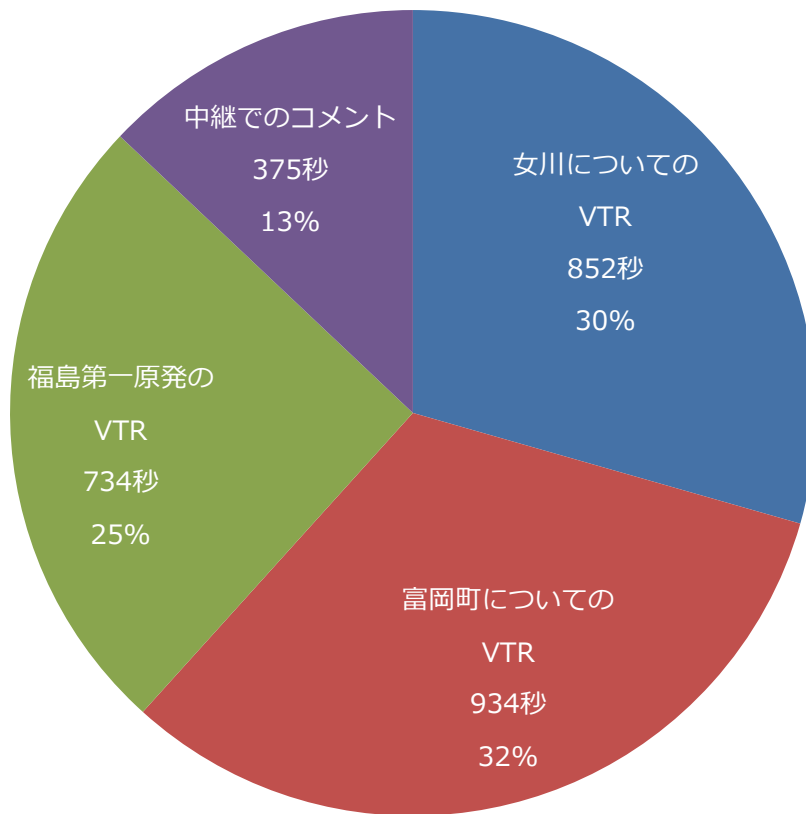
東京大空襲から 73 年となる今日、犠牲者らの遺骨が安置されている東京墨田区の東京都慰霊堂で法要が営まれ、秋篠宮御夫妻の他、遺族らおよそ 600 名が参列し、東京都の小池知事は今日の平和と安全の生活は先人たちの大変なご苦労とご努力の上に築かれている、と追悼の言葉を述べましたこと、午後には都庁でも式典が行われおよそ 500 人が参加したことが報じられた。このトピックに当てられた時間は 90 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・アメリカの軍事パレード：結論→特に問題なし

トランプ大統領が指示していた首都ワシントンでの軍事パレードについて日取りが決まったことが報じられた。併せて、トランプ大統領は去年 7 月にパリで観覧したフランス革命日の軍事パレードに感銘を受け同様のパレードの実施を国防総省に指示していたことや、国防長官室が統合参謀本部議長に指示した文書によるとパレードは今年の 11 月 11 日退役軍人の日にホワイトハウスから連邦議会議事堂までの大通りで実施される計画で、退役軍人が当時の軍服を着用してパレードに参加するほか、軍用機の編隊飛行が披露され、トランプ氏自身は議事堂で観覧する予定となっていることが説明された。このトピックに当てられた時間は 48 秒で、放送法第四条の観点からは特に問題は見られなかった。

・【特集】原発と復興：結論→特に問題なし

原発と復興について特集として取り上げられた。この特集に当てられた時間は 2895 秒で、大きく分けて女川町、富岡町、福島第一原発、それぞれに対して取材を行った VTR と中継でのコメントという 4 つのポイントがあった。それぞれのポイントについての時間配分とその比率は以下の通りである。



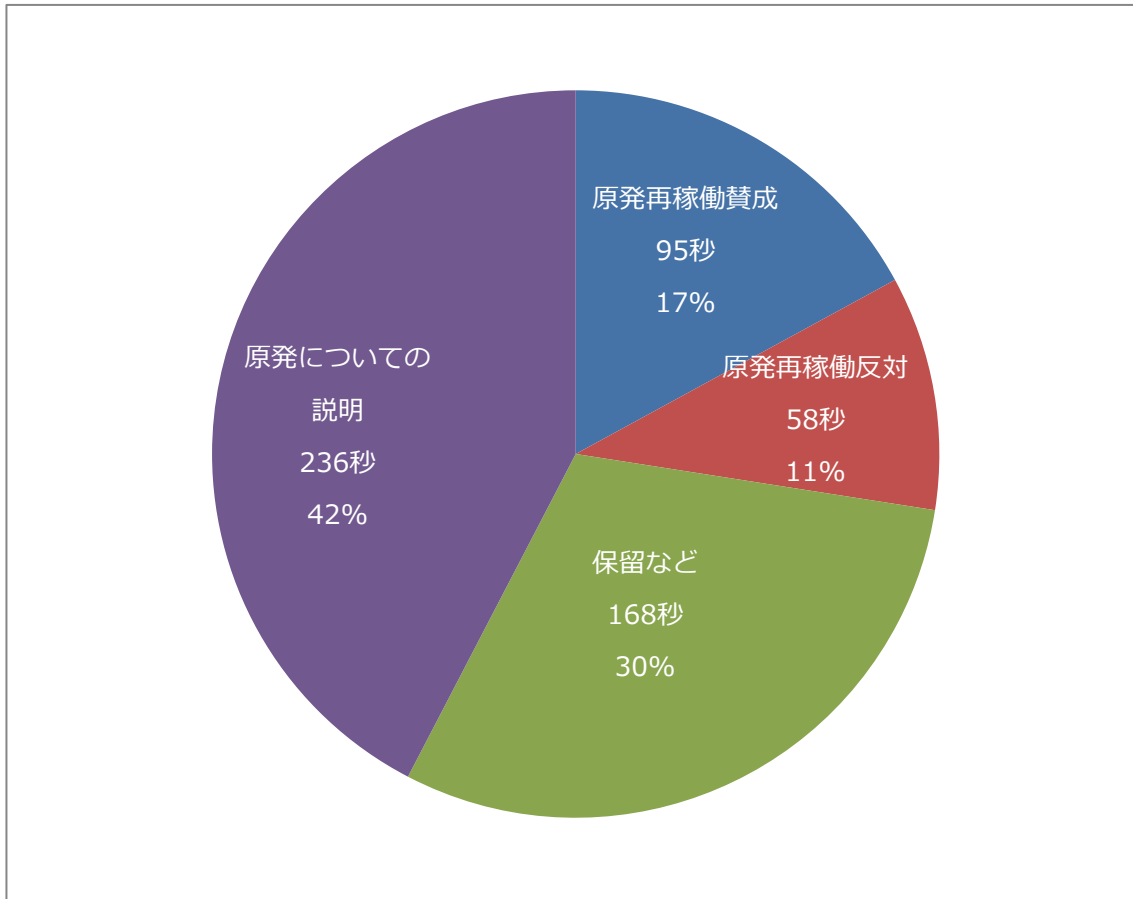
女川への取材についての VTR では、女川では住宅を周辺の高台に移し公営住宅の供給は今月末に完了する見通しであり、他方で、駅前に商店・役場・学校などを集約するコンパクトシティとして生まれ変わろうとしている復興のトップランナーであり今年の秋以降に津波の被災地としては初めて原発再稼働の是非を問われるという状況が説明された後に、膳場キャスターによる住民や町長に復興や街の様子、原発の是非についてのインタビューをするシーンが取り上げられた。

住民へのインタビューでは水産加工会社ヤマホンの山本丈晴さんの復興や会社再建の道のりについてのインタビューや、観光客が多く地元住民の客や地元住民自体は減っていることや高台からコンパクトシティまでの移動がお年寄りには大変という住民の声が取り上げられた。また、震災前はスナックとして営業していた居酒屋カフェ M を経営する神田悦子さんの震災前と比べて女川らしさがなくなったこと、復興事業が終わり原発の人が戻ってこないと人口も減っているのが震災前よりひどくなるかもしれない、という声も取り上げられた。

町長へのインタビューでは須田善明町長の「自然減で毎年マイナス 100 人位になるんですね。ですから町が復興しようがしまいが間違いなく他の地方社会と同様にやはり減っていく。もうマンパワーが小さくなっていく、ということです。今後、自動運転ですとか、そういう新しい技術というのは私達のような小さいドローカルな町ほど多分必要になってくるものだと思うんですね、ですから新しい技術なんか積極的にこの街で展開して、将来あるであろう田舎社会の姿っていうのをここでちゃんと先取りしてそれに対応するものとしてやっていきたい。」という発言が取り上げられていた。

原発の是非については、膳場キャスターの「女川町の中心部から直進距離で 8 キロほどのところにある女川原発にいきました。ちょっと驚いてしまったんですけども、本当すぐ目の前に漁港があるんですね、生活の近く

にある原発なんだなということがわかります。」というコメントや、「地震と津波は女川原発も襲った。13メートルの津波は重油タンクを押し流したが建屋の敷地までは届かなかった。だが取水路を伝って地下二階水が侵入し、非常用発電機八台のうち2台が停止、また地震の揺れで外部電源5系統の内4系統が損傷するなどの被害を受けた。三基ある原子炉は全て冷温停止した。現在は再稼働を目指し安全対策を進めている。」というナレーションで女川の原発について説明された後に、原発を巡る賛否の声が取り上げられていた。女川原発が取り上げられた時間は557秒であり、賛成・反対・保留・背景説明についての時間配分と比率は以下の通りであった。



原発についての説明では前述した説明に加え、「町も女川原発から恩恵を受けてきた。2016年度、東北電力からの固定資産税はおよそ23億円、固定資産税収入の9割を占め、町の税収全体を見ても7割強にあたる。国から受けた原発関連の交付金は37年間で234億円にものぼる。」と町の経済・財政に占める原発の位置づけについて言及された。

再稼働賛成については東北電力女川原発の菅原勲所長代理の「やはり経済面だけではなくてですね、エネルギーセキュリティとか、環境面でも我々は原子力発電が必要と考えていますので、女川二号機、東通の一号機ということで再稼働を進めていきたいというふうに考えております。」というコメントや女川商工業協同組合の木村征一理事長の「あの大きな震災でも持ちこたえたということは、現にあるんですからね、だから組合としては再稼働っていうことを願っています。」というコメントに加えて、12人の町議のうち5名が賛成であること宮本潔町議の「女川町は原発と一心同体でやってきたっていうところもあって商店街活性化のためにも原発は活性化したほうがいいのではないか。」というコメント、阿部薫町議の「町民の安全を考えながらそのバランスが、どのような電源であるべきかということとは慎重にみんなで消費地の方々も一緒になって考えてもらえれば。」というコメントが取り上げられた。

再稼働反対については12人の町議のうち3名が反対であることと、高野博町議の「万が一、事故が起きたら

どこに行けばいいんだとなるから、住民の意見を聞かなきゃ話にならないでしょ。」というコメントや阿部美紀子町議の「廃棄物も処理できない、で住民の危険、というか健康に当然危険があるものだし、これは絶対認められないといいますか」というコメントが取り上げられた。また気仙沼での金平キャスターが「あのね、再稼働に反対だっていう人もいたんじゃないでしょうかね、ただ原発の地元だと中々こう言い出せないと言うか。」というコメントに対して膳場キャスターが「実際そうなんですよね、カメラの前では話せない、内心不安である、反対なんだよ、っていう方が実際多くいらっしゃいました。ただね、そういう事を言うのを憚ってしまうほど町と原発っていうのは密接な関係にあるわけなんです。」という発言も反対のものとして計測した。

原発再稼働の賛否への保留については12人の町議のうち3名が検討中であること、木村征郎町議の「できるだけ原子力発電所に頼らないっていうか、経済的な自立をしなくちゃならないならないっていうようなことを言ってきましたけどね、私も思っていましたけど、中々現実にはそうは行かないんじゃないんですか。だって、あるんだから。原子力発電所の立地所でリアルに住民に接しているがゆえのいろんな判断の難しさというのものもあるんじゃないんですか、私だけじゃなく。」というコメントや、住民の「覚悟しているんですよね、んで覚悟っていうのは、なんかあったら私の命がなくなるっていう覚悟ではなくて、何かあったら、どうしなければいけないかっていうのを考えた上でここで生きている。」「うーん、みんな複雑な気持ちで、私達もここに家建てただけど、友達にね、なんでそんな危ないところに家建てたの、っていわれるんですけれどもね。ここに住むっていうとこの、ときの覚悟みたいなのがあるんじゃないでしょうかね。」というコメントが取り上げられていた。また、気仙沼での膳場キャスターの「私女川原発には一昨日行って生きたんですけども、今年秋以降の再稼働を目指して巨額の費用そして大きな費用を投じて本当に大掛かりな安全対策を行っていました、正直ね、原子炉が動いていないのにこれだけの作業員の方がいらっしゃるというのは驚きでした、これから女川町は再稼働の是非について判断をしていくわけですけども町の将来像をね、どんな将来像を描いてそれに向けて住民との合意形成をどんなふうに行っていくのか、大きな課題だと思います。話を伺った12人の町議の中には再稼働の重い判断をこんな小さな町だけに押し付けたくないでほしい、という声もありました。私達も原発に対する議論ももっと活発にオープンにしていけないといけないのかもしれないかもしれません。」という意見も保留のものとして計測した。

賛否の比率ではやや賛成に偏った結果になったが、街の経済・財政が原発に大きく依存している点、

富岡町については帰宅困難区域に指定されている長泥行政区に焦点が当てられて放射性廃棄物の入ったフレコンバッグや環境省が提案する汚染土の再利用を受け入れることで復興拠点の範囲を広げるとそれに伴う除染も広く行われる特定復興拠点再生制度について説明され、長泥行政区の住民や富岡町の住民集会の様子も取り上げられた。またVTRをうけて日下部キャスターが「長泥の開拓の歴史って決して古くはないんですね、ですから住民の人達はおじいちゃんやおばあちゃんからリアルな開拓の歴史とか苦労話を聞いている、それだけに土地に対する愛着思いっていうのが非常に強いんですね、ですから私など他所から来た人にはほとんどわからない部分もあるし、オフィスで復興計画をねっている行政の人にも中々わからない部分があるのだと思います。そういった認識のギャップの中で、今回長泥の火を消しては行けないということで住民の人は汚染土を引き受けるという決断をしたんです。この意味を改めて噛み締めたいですし、これからも長泥の取材を続けていきたいと思います。」とコメントし、長泥という地域の住民が持つ土地に対する愛着や思いについて言及された。

福島第一原発では構内の多くの部分で除染が進められていることと未だに原子炉建屋の周辺や建屋の中は線量が高いことが説明され、建屋の中の様子を金平キャスターが取材した様子が伝えられた。また、汚染水ではセシウムなどは取り出せる一方でトリチウムは取り出すことができないことや、濃度の低いトリチウム水は海に流すことが可能であるがそれに対しては漁民を中心とした地元住民からの反発があること、凍土壁による汚染水対策も万全とは言えないこと、建屋の中の燃料デブリの問題が残っていることなどが取り上げられていた。またVTR

をうけて、膳場キャスターと金平キャスターの間で以下に朱記したやり取りが繰り返されられた。

膳場貴子「金平さんは福島第一原発の構内にこれまで七回入ってみてきているんですね。」

金平茂紀「三号機の建屋の燃料取り出し用カバーの内部ですけれども、これかなり放射線量は減ったんだという東京電力の説明を受けたんですけれどもそれでもいままってやっぱりかなり高い数値の放射線量があるという状態がありましたね。それから汚染水の問題も限界に達しつつあるということを考えると廃炉作業が始まっていると言うよりは、事故処理、事故の収束作業がまだまだ続いているっていうほうが真実に近いと思いましたね。」

膳場貴子「そして、肝心の溶け落ちた燃料デブリですね、アレの除去についてはどうなってくるのでしょうか。」

金平茂紀「これはね、除去については見通しがまだ立っていない、っていうのが非常に冷徹な現実だというふうに思いますですね。ここで一つ申し上げたいことがあって、実は今年の1月にある科学者が亡くなりました吉岡 齊、九州大学の教授なんですけれども64歳で早すぎる死でしたね。吉岡さんは原発ゼロ社会を目指して、脱原発運動を引っ張ってきた人物として知られているんですけれども、原発事故の後政府事故調の委員も務めた人物です、で吉岡さんが賢明に伝えたかったことのひとつなんですけれどもこの期に及んで起きてしまったことを過小評価しようとするような科学者メディアそして官僚組織のあり方について非常に強い憤りを覚えていると、本当に私達人間は原発と共存できるのか、原発を抱えることによって人間は幸せになれるのだろうか、っていうことを根源的な問いを発し続けてきたんですけれども、このところですね、この国を覆っている、原発事故にとどまらずこの国を覆っているようなあったことをなかったコトにしようとするような動きにですね、今後ともしっかりとチェックする必要を取材していて痛感しました。」

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・森友学園問題

オープニングでの金平キャスターのコメントでの言及は、原発や復興という特集テーマと関連して言及するようなものなのかという点や50分にも迫る特集で取り上げるテーマに対して5分も割いていない森友学園を並べて論じる姿勢については疑問であったが、森友学園問題についての報道としては一切言及せずに個人的感想にとどめていた先週と比べると、今回では森友学園についての報道もあったので、前回と比べると改善されているといえる。

・【特集】原発と復興

VTRを承けての中継地での総括での金平キャスターや膳場キャスターの語り口は原発反対という論調であったものの、VTR自体はそれぞれの取材地の抱える問題などをしっかりと取り上げていたものだった。また、原発を抱える現地の声や経済財政事情などにも着目しており、放送法の観点からも評価できるものと考えられる。

女川町の原発に対する賛否について取材したVTRを承けて気仙沼で金平キャスターが「あのね、再稼働に反対だっという人もいたんじゃないでしょうかね、ただ原発の地元だと中々こう言い出せないと言うか。」というコメントに対して膳場キャスターが「実際そうなんですよね、カメラの前では話せない、内心不安である、反対なんだよ、っていう方が実際多くいらっしゃいました。ただね、そういう事を言うのを憚ってしまうほど町と原発っていうのは密接な関係にあるわけなんです。」とコメントするやり取りは、見ていると自分の主張に都合よく現地の住民の内心を「付度」しているようにも見えた。

また、日下部キャスターが言及した富岡町の住民の持つ土地への愛着というのは、都市部と地方の感覚の違いとして重要な指摘であるように感じた。